

大阪代協

3支部合同セミナー開く

ヒトモノカネがついてくる！

「利き脳の見分け方と活かし方」

大阪代協(新谷香代子会長)は10月25日、大阪府中央区の損保ジャパン大阪ビル1階会議室で、北大阪支部・船場支部・北摂支部の3支部合同セミナーを開催した。これには北大阪支部から8名、船場支部から10名、北摂支部から14名、3支部以外の代協会員が9名、未加入者3名、保険会社12名の合計56名が参加した。

講師は株式会社スミレボの米澤忍社長で、「ヒトモノカネがついてくる！」「利き脳の見分け方と活かし方」をテーマにした90分間講演を行った。同氏は一般社団法人行動コミュニケーション

「行動」「結果」の4つがあり、これが好循環となるか悪循環となるかは、最初どこを重視し、スタートするかで決まると述べた。

「結果」の4つが、そこで問題となるのが、良い「関係」を築くためには、自分を知り、相手を知り、「コミュニケーションを取り、尊重し高めあうということ。このときに活かせるのが「脳の特性の違い」を知り「コミュニケーションギヤップを解消する」という手法である。このセッションに投影したスライドをめくっていくと、これが手品のように当たりまくり、会場は大いに盛り上がった。

最初に重視すべきは「関係」

自分を知り、互いに支え、与え続ける



セミナーの様子

と関係がギクシヤクシ、思考がマイナスに、行動が緩慢にと、バッドサイクルに入ってしまうとのこと。組織にとって最初に重視すべきは「関係」であり、良好な関係を築きスタートすること、思考と行動は健全な活発なものとなり、良い結果をもたらす、成功循環モデルが確立できると強調した。

「勇」「誠」「礼」「義」を真ん中で繋ぐもの、それが「仁」であると。これは新渡戸稲造の武士道の考え方だという。

セミナーの導入部では、組織の成功循環モデルについて解説。循環の要素は「関係」「思考」

「勇」が12人、「誠」が6人、「礼」が21人、「義」が16人となった。その後、各タイプに分かれてのワークショップを交えながら講演が進んでいった。

米澤氏が「何%の可能性があれば実行しますか?」というような質問をいくつか、それぞれのタイプの人に順に聞き、その答えの後に前方スクリーンに投影したスライドをめくっていくと、これが手品のように当たりまくり、会場は大いに盛り上がった。

なお、4タイプの分布は今回の参加者では偏在しており、これはその集合体の性格によってよくあることのようにだが、駅前で3000人の通行人を対象に行った調査では、4つのタイプはほぼ25%ずつとなり、均等に分かれたとのことである。

「関係」「思考」

「勇」「誠」「礼」「義」

「仁」

「勇」「誠」「礼」「義」